□には、リンクがあります。※は、WAMNETの事業者情報にリンクします。

事業所名 グループホーム 万富の郷 ※

日付 平成17年8月17日

特定非営利活動法人

評価機関名 高齢者と痴呆の人のケアを大切にする会

LIFE SUPPPORT推進グループ

評価調査員 在宅介護経験15年

評価調査員 在宅介護経験9年

自主評価結果を見る (まだリンク先はありません)

評価項目の内容を見る

事業者のコメントを見る(改善状況のコメントがあります！) ※

外部評価の結果

講評

全体を通して(特に良いと思われる点など)

このホームの売りは「菜園です。土の力は大きいんです」と言われる。昼食にその自慢の菜園で採れたかぼちゃと茗荷が出た。元々田園や畑が多い土地柄、それに携わっていた利用者も多い。土との触れ合いを大切にする事で「環境と人との関わりを大切に」の理念を詠っている。

社長夫人が大型施設での介護に物足りなさを感じ、「家庭の延長でよい」「利用者の子供や妹になりたい」と言うご主人を巻き込み、同じ思いのケアマネ・家族・職場仲間達と立ち上げた。

今週末の夏祭りには200軒に案内を出した。老人会や子供会の応援、近所からの差し入れ予定も有るとの事。そして又、デイサービスの要望も近所から出ているとの事。社長の自宅が隣、いくら地元出身とは言え、立ち上げ当初からこれ程の理解と応援を得られるホームは少ない。

利用者は入所時、名前入り座布団で歓迎される。その一人は1ヶ月の入院後、このホームに帰って来て涙を流して喜んでくれた。又、ある利用者は台所を手伝いながら、「そうはいかなご、いりこの目」「そろりしんざえもんで後から付いて行きます」と次々と冗句が出て来る。職員の思いが利用者の心に伝わって、和やかな擬似家族を感じた。

立ち上げ間なしなのに、「家族への便り」「地域との連携」「家族会」があり、ホーム立ち上げ時の思いを既に実践していることにも吃驚した。同じ地元民として頼りがいのあるホームになりそう。

特に改善の余地があると思われる点　　次のような提案をした

アルバムや家族・孫からの頼りなど、各居室にその人の過去を物語るものがもう少しあっても良いのではないかと思う。

職員間のコミュニケーションが取れているので今は不要だが、連絡帳に職員の悩みや本音が書いてあればと思う。例えば、「○○さんは△△言われたけど、これは××意味なのかな？」「こうしたいけど・・・・」等。後日新しい職員への申し送りも容易だと思うし、利用者の本音も浮かび上がって、共有出来るかも知れない。改善ではないが、希望として「万富の郷だより」を 200軒に是非回覧して欲しい。

Ⅰ 運営理念

番号	項目	できている	要改善
1	理念の具体化、実現及び共有	○	

記述項目：グループホームとしてめざしているものは何か

認知症介護経験の長い、気心の知れた者同士が、地元で立ち上げ、顔なじみのご近所とは当初から行き来し、回覧・共同購入は勿論、「デイサービスをして欲しい」との要望まである。

自前の菜園・土を売り物に「自分で育てた作物の収穫と喜び、地元の人との触れあいを大切に」と利用者の環境をも整えようとしている。

鍵の無い玄関だから利用者は勿論、家族やご近所さんの出入りは自由である。毎日の家族訪問や野菜の差し入れ等、暮らしてきた環境・暮らしを大切にしている。

「認知症とは情報をやり取りする力が弱まり、ストレスに弱い方々である。そんな特徴に配慮した、環境と人との交わりがあると認知症の人でも秘められた力を出し、穏やかに誇りを持って暮らす事が出来る。それを認知症を熟知した職員が見守り支えます」と詠っているそのままを実感した。

Ⅱ 生活空間づくり

番号	項目	できている	要改善
2	家庭的な共用空間作り	○	
3	入居者一人ひとりに合わせた居室の空間づくり	○	
4	建物の外回りや空間の活用	○	
5	場所間違い等の防止策	○	

記述項目：入居者が落ち着いて生活できるような場づくりとして取り組んでいるものは何か

「認知症でも感性はある。秘められた自分の力を外の空気を吸い、土と触れ合う事によって見い出してあげたい。その為に菜園を作り、ドライブを計画し、実行しています」「一つの家族のように暮らし、安らぎの住まいの提供を心掛けている」と語る。利用者に対するこんな姿勢はオーナー以下職員同士の雰囲気が擬似家族に感じられた事から自然に生まれて来て、工夫が生まれるものと思えた。

Ⅲ ケアサービス

番号		できている	要改善
6	介護計画への入居者・家族の意見の反映	○	
7	個別の記録	○	
8	確実な申し送り・情報伝達	○	
9	チームケアのための会議	○	
10	入居者一人ひとりの尊重	○	
11	職員の穏やかな態度と入居者が感情表現できる働きかけ	○	
12	入居者のペースの尊重	○	
13	入居者の自己決定や希望の表出への支援	○	
14	一人でできることへの配慮	○	
15	入居者一人ひとりにあわせた調理方法・盛り付けの工夫	○	
16	食事を楽しむことのできる支援	○	

Ⅲ ケアサービス(つづき)

番号	項目	できている	要改善
17	排泄パターンに応じた個別の排泄支援	○	
18	排泄時の不安や羞恥心等への配慮	○	
19	入居者一人ひとりの入浴可否の見極めと希望にあわせた入浴支援	○	
20	プライドを大切にした整容の支援	○	
21	安眠の支援	○	
22	金銭管理と買い物の支援	○	
23	痴呆の人の受診に理解と配慮のある医療機関、入院受け入れ医療機関の確保	○	
24	身体機能の維持	○	
25	トラブルへの対応	○	
26	口腔内の清潔保持	○	
27	身体状態の変化や異常の早期発見・対応	○	
28	服薬の支援	○	
29	ホームに閉じこもらない生活の支援	○	
30	家族の訪問支援	○	

記述項目：一人ひとりの力と経験の尊重やプライバシー保護のため取り組んでいるものは何か

痴呆度が進んで、利用者同士がコミュニケーションを取り合う場面は少ないけれど、傍に寄り添えば私達との会話が出来るし、色々話しても貰える。職員の寄り添いも目立たないが、常にある安心感が利用者の穏やかな表情から読み取れる。

台所や庭を、ウロウロゴソゴソする人にも、性的な問題を持つ人にもそれぞれの対応を考え、認知度が急に進んだ人を憂い、入院中寝たきりだったのを退院後少しずつ離床時間を延ばし、トイレ問題や入浴時間も工夫して取り組んでいる。当たり前の事だけど、きっちりと対処しようとしている。退院して涙を浮かべて喜ぶ利用者に仕事の喜びを感じている。さすが、認知症ケアを熟知している事を痛感したが、それを売りとしない謙虚さが又、素晴らしい。

介護経験は素人と言いながら、しかし、地域との人脈が出来ているオーナーは、土に親しむ事の大切さ、地域との交わりの大切さを良く知っていてグループホームケアに上手く取り入れている。

利用者の能力を色んな行事をして引き出そうともしている。「祭りはビールが飲めるから楽しみ」と言う利用者の生き生きした表情は認知症とは思えない。

Ⅳ 運営体制

番号	項目	できている	要改善
31	責任者の協働と職員の意見の反映	○	
32	家族の意見や要望を引き出す働きかけ	○	
33	家族への日常の様子に関する情報提供	○	
34	地域との連携と交流促進	○	
35	ホーム機能の地域への還元		○

記述項目：サービスの質の向上に向け、日頃から、また、問題発生を契機として、努力しているものは何か。

職員は犬好きが多い。一人嫌いな利用者の隙を見て、犬と触れ合った事もあり、喜ばれたとか。又、大人だけでなく、管理者の孫や職員の子供も登場するとか。中学校にも声を掛けているとか・・・と楽しみが一杯のホームである。

地元から要望のあるデイサービスがオープンしたら又、お付き合いの世界も広がる。同じ地域に住む私は大きな「小規模多機能福祉発信基地」となるよう期待一杯である。

現在は気心の知れた職員ばかりで運営出来、チームワークも良い。若い男性の職員もおり、利用者にも人気となるだろう。これからは、このホームの運営理念に合う人を沢山育てていって欲しい。